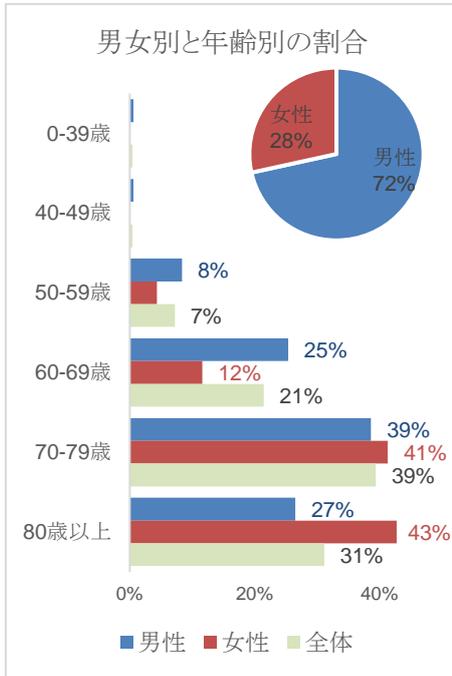


● 1 診断 ●

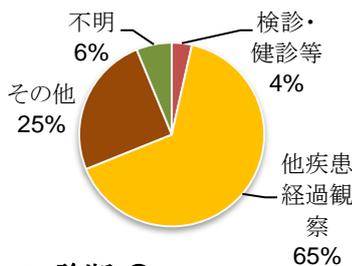
● 1-1 登録状況 ●

肝および肝内胆管がんの2019年診断症例の登録件数は485件で、男性が72%を占めています。



◆ 1-1 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2013-2019年診断
▶症例区分8, 80除く
(付録資料:表A-4)
(付録資料:表B-4)
(付録資料:表C-4)
(付録資料:表D-4)

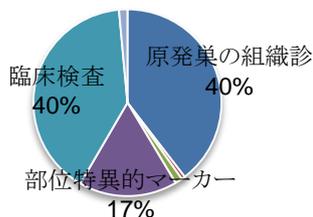
● 1-2 がんが発見される経緯 ●



肝および肝内胆管がんに対し、定められている検診はなく、がん検診・健康診断、人間ドックでがんが発見された割合は4%に過ぎず、約7割が他疾患経過観察中ながんが発見されています。そのほとんどが肝炎の経過観察中の発見と思われます。

◆ 1-2 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表F-4)

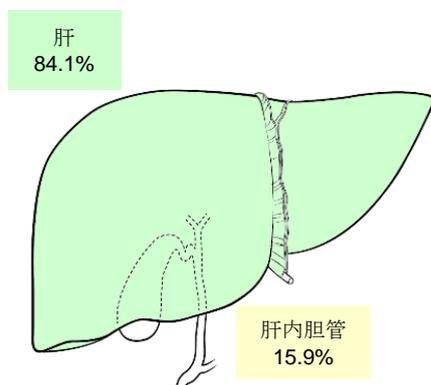
● 1-3 診断 ●



診断根拠は、原発巣の組織診が40%、肝細胞癌に対するAFP高値などの部位特異的マーカーが17%、臨床検査が40%となっています。

◆ 1-3 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表G-4)

● 1-4 詳細部位 ●

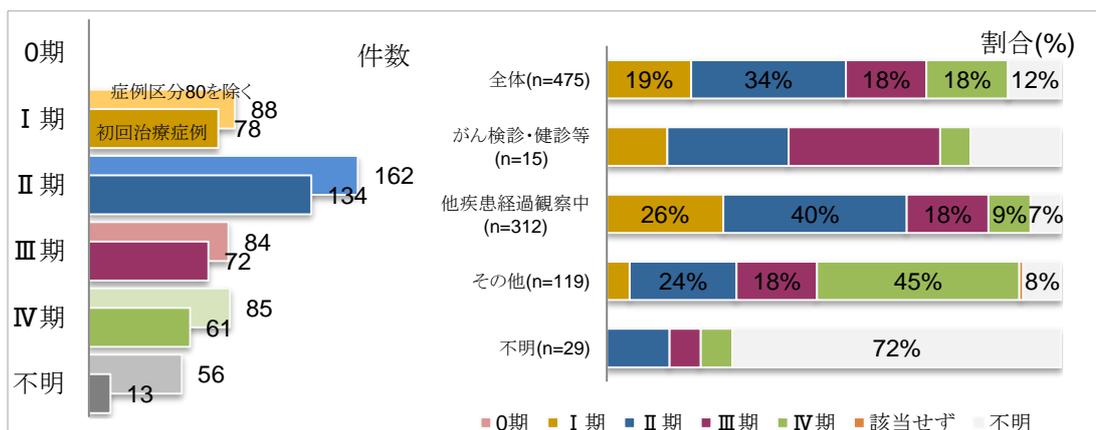


局在コード	部位名	登録数
C22.0	肝	408
C22.1	肝内胆管	77

◆ 1-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く

● 1-5 病期(肝癌取扱い規約別 治療前ステージ) ●

病期分類の対象となった475件のうち、Ⅱ期が最も多く34%、次にⅠ期が19%を占めています。



◆ 1-5 資料
院内がん登録
総合ステージ別
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表P-3)
(付録資料:表P-4)
(付録資料:表H-4)

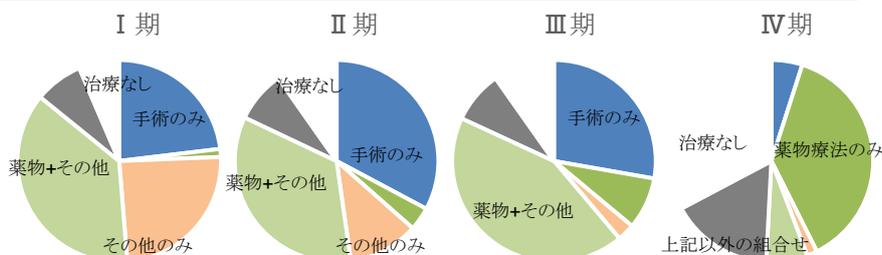
● 2 治療 ●

● 2-1 肝および肝内胆管がんの治療 ●

肝癌取扱い規約分類ステージ別の治療法は、Ⅰ期からⅢ期では「薬物+その他」が多く、Ⅳ期では「薬物療法のみ」が38%、「治療なし」が39%です。

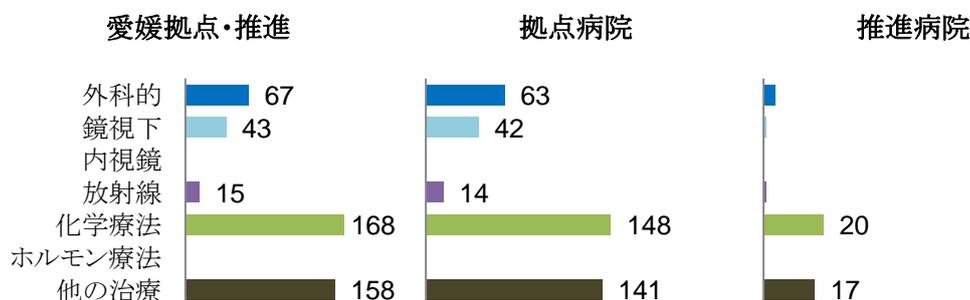
院内がん登録では、ラジオ波による焼灼療法(RFA)やTAEは、「その他」の治療として、肝動脈化学塞栓療法(TACE)は「薬物+その他」として登録されます。

	stage I		stage II		stage III		stage IV	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
手術のみ	18	23%	44	33%	20	28%	1~3	
薬物療法のみ	1~3		4~6		4~6		23	38%
その他のみ	19	24%	15	11%	1~3		1~3	
薬物+その他	29	37%	46	34%	31	43%	4~6	
上記以外の組合せ	4~6		11	8%	4~6		10	16%
治療なし	4~6		13	10%	7~9		20	33%
合計	78		134		72		61	



◆ 2-1 資料
院内がん登録
総合ステージ別
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表P-5)

● 2-2 各治療の件数 ●



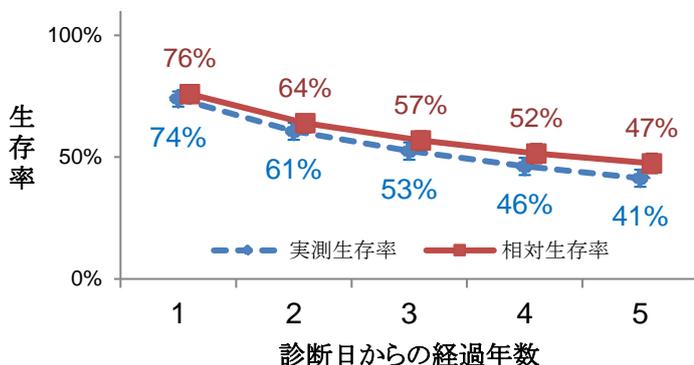
◆ 2-2 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表P-6)

● 3 予後 ●

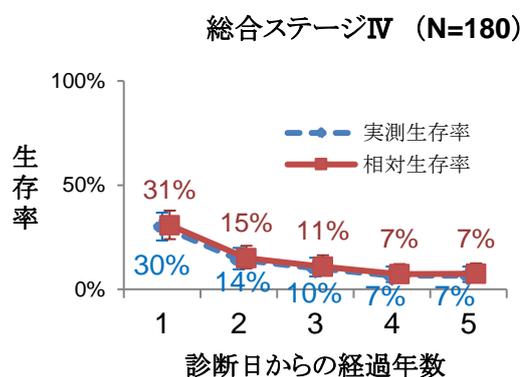
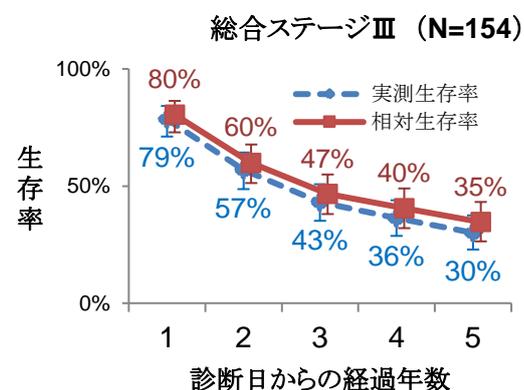
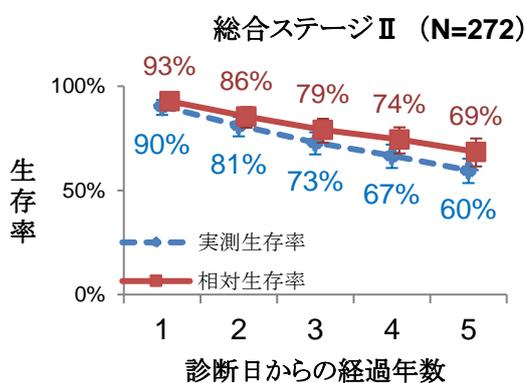
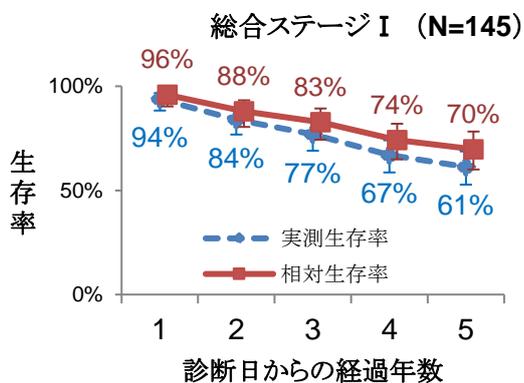
● 3-1 5年相対生存率 ●

2012年と2013年に診断された症例の5年生存率は、実測生存率41.4% (95%信頼区間 37.8 - 44.9)、相対生存率47.5% (95%信頼区間 43.4 - 51.5)でした。集計対象数は762、うち69%が男性、年齢別では70歳代が最も多く35%、60歳代が33%、80歳以上が20%でした。術前の取り扱い規約ステージ別の内訳は、I期 19%、II期 36%、III期 20%、IV期 24%となっています。

	N	実測生存率		相対生存率		*予後判明率 97.8%	
		95%信頼区間		95%信頼区間			
		1		1			
1年	557	0.740	0.707 0.770	0.759	0.726 0.790		
2年	455	0.607	0.571 0.641	0.639	0.601 0.675		
3年	393	0.526	0.489 0.561	0.569	0.529 0.606		
4年	343	0.462	0.426 0.498	0.515	0.475 0.554		
5年	304	0.414	0.378 0.449	0.475	0.434 0.515		



● 3-2 ステージ別 5年相対生存率 ●

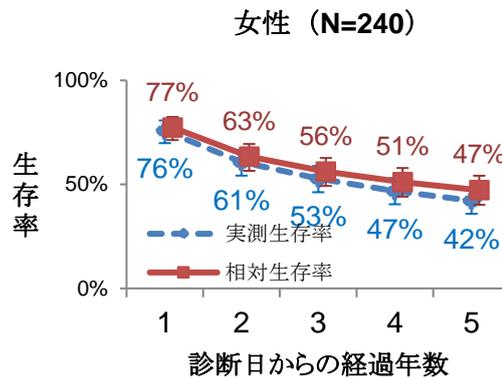
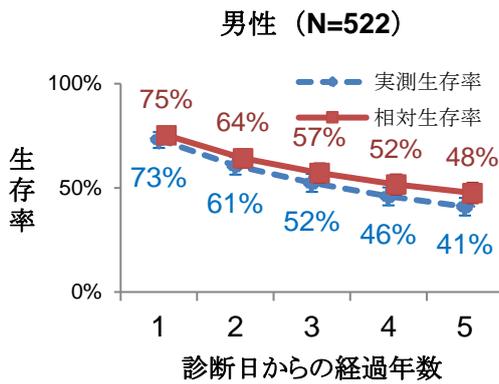


◆ 3-1 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2012-2013年診断
▶症例区分2,3のみ
▶100歳未満

◆ 3-2 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2012-2013年診断
▶症例区分2,3のみ
▶100歳未満

〈付録資料:表d-1〉

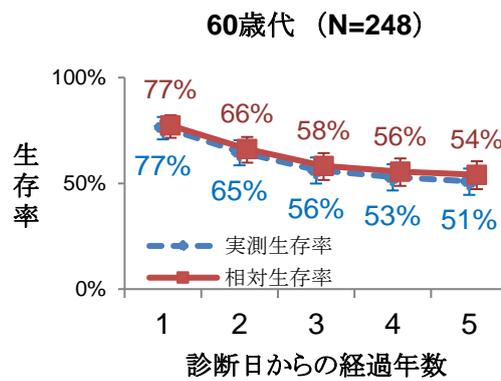
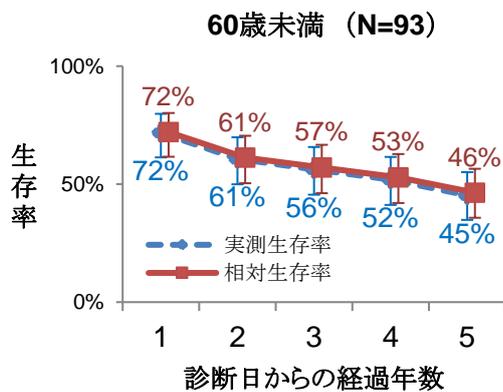
● 3-3 性別 5年相対生存率 ●



◆ 3-3 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2012-2013年診断
▶症例区分2,3のみ
▶100歳未満

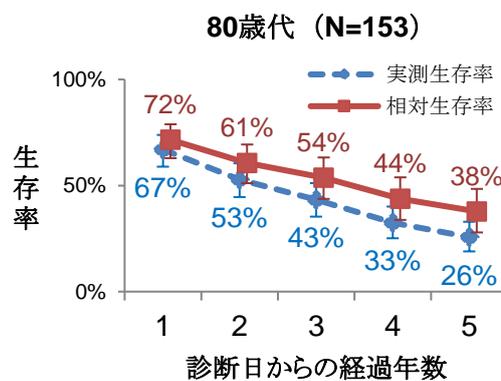
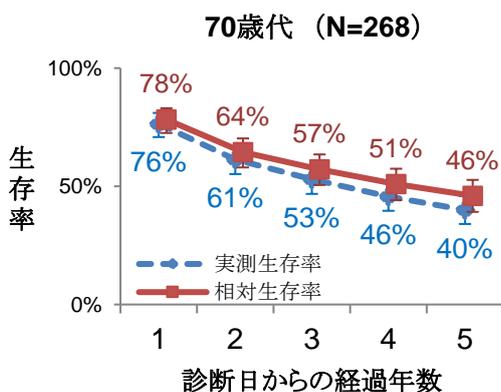
〈付録資料:表d-2〉

● 3-4 年齢群別 5年相対生存率 ●



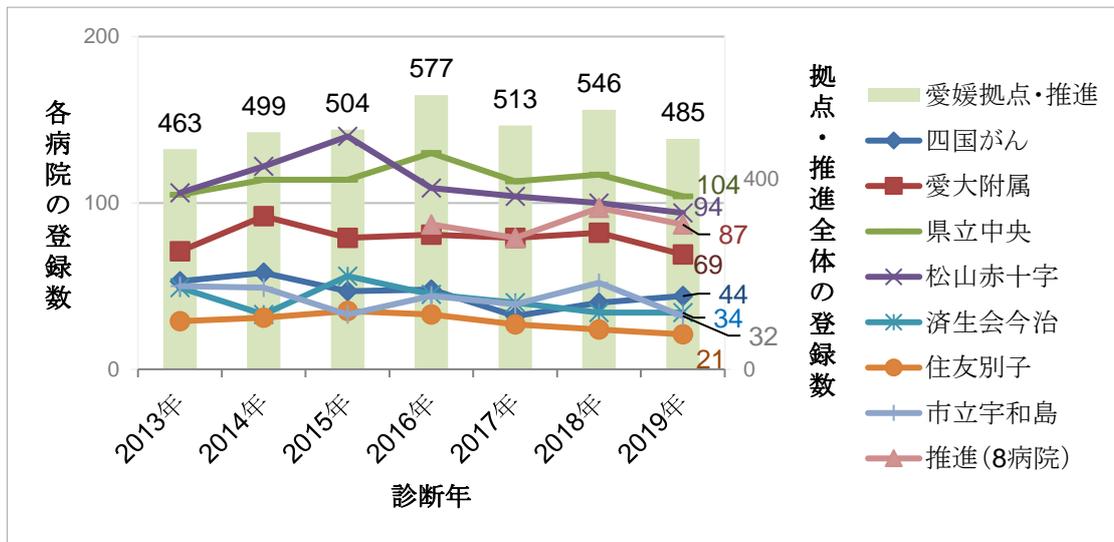
◆ 3-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2012-2013年診断
▶症例区分2,3のみ
▶100歳未満

〈付録資料:表d-3〉



4-1 登録件数の推移

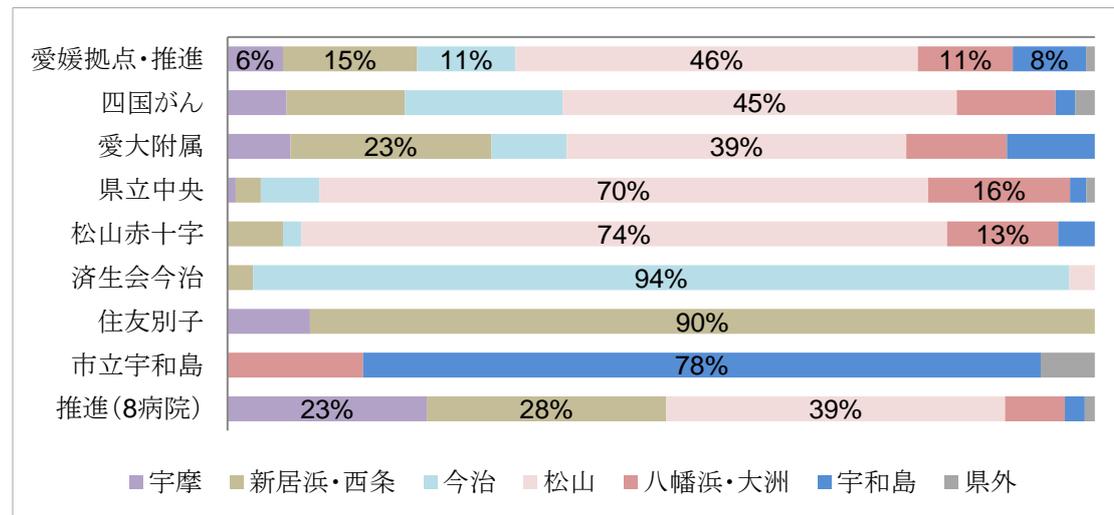
肝および肝内胆管の登録件数は、県全体では500件前後を推移しています。2019年診断症例の登録件数は485件です。



◆ 4-1 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2013-2019年診断
▶症例区分8, 80除く
(付録資料:表A-4)

4-2 診断時の住所(二次医療圏別)

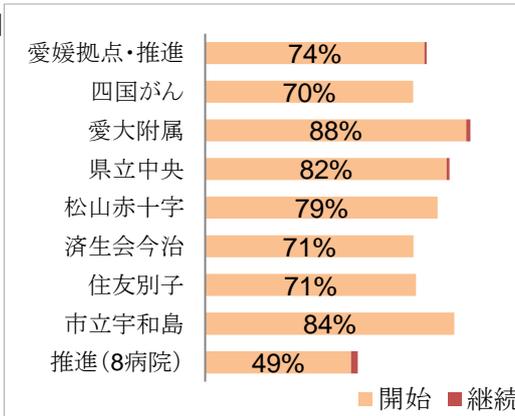
診断時の居住地の割合を示しています。拠点・推進病院全体では46%が松山圏域の患者です。四国がんと愛大附属では他医療圏からの患者割合が大きく、他の拠点病院では病院の所在する医療圏の患者の登録割合が大きいです。



◆ 4-2 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表I-4)

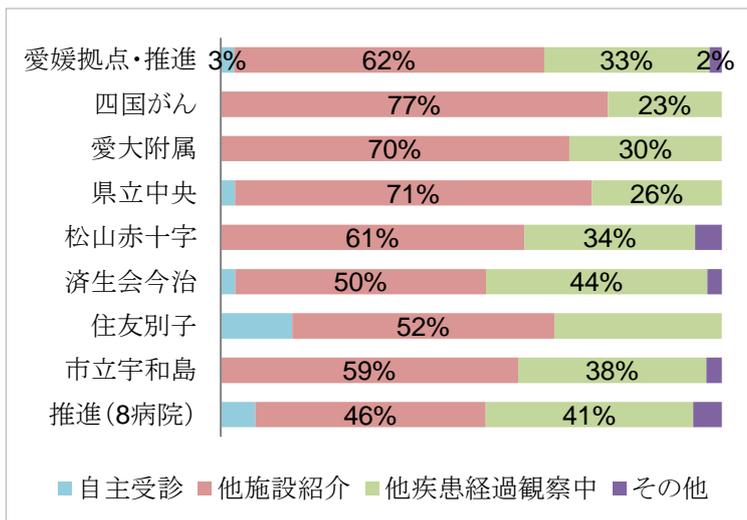
4-3 治療(初回治療)を行った症例の割合

新規の症例のうち75%がその病院で初回治療を受けています。初回治療を開始した症例の割合は74%です。初回治療の症例の割合は病院により差があり、治療症例の割合が低い施設では、診断のみを行った症例や再発治療目的でその病院をはじめて受診した症例が多いことを示しています。



◆ 4-3 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表K-4)

■ 4-4 来院経路 ■

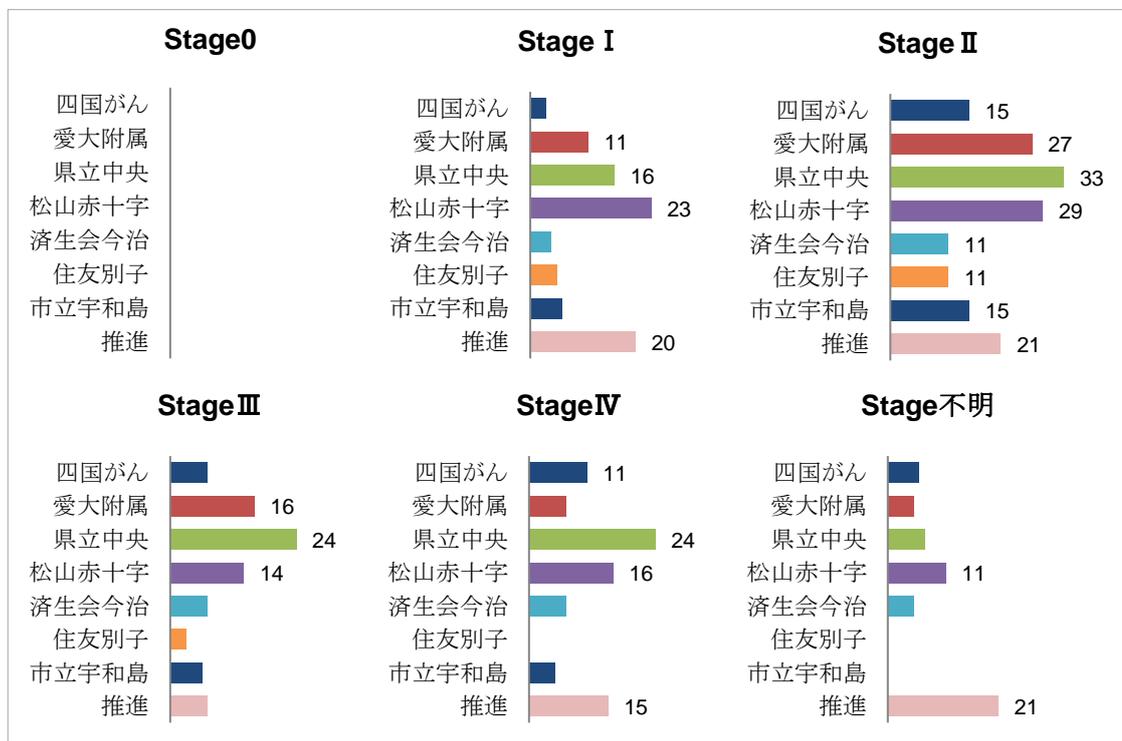


拠点・推進病院を受診した患者の62%が他施設からの紹介受診です。紹介なく、自主受診した割合は、病院により異なりますが、地域での役割や病院特性などを表していると考えられます。

◆ 4-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表L-4)

■ 4-5 病期別の件数 ■

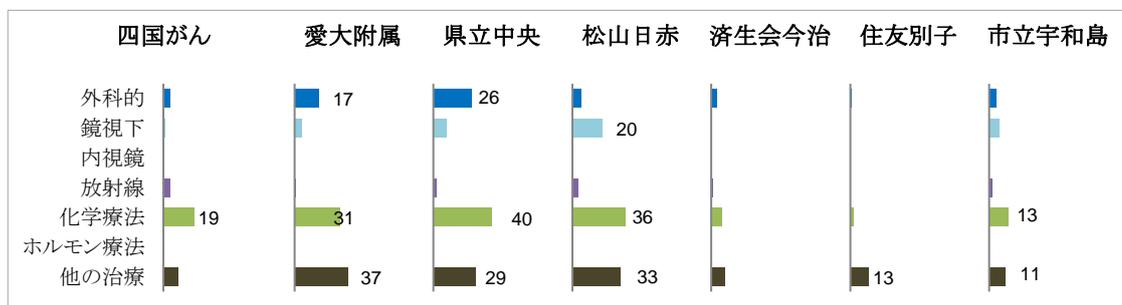
肝癌取扱い規約分類ステージ別に、各病院の登録数を示しています。その病院では初回治療を行っていない症例も含まれています。そのため、ステージに関する十分な情報がない症例も含まれており、ステージ不明が一定数存在しています。



◆ 4-5 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表P-3)

■ 4-6 治療の件数 ■

各病院で行われた初回治療の件数です。ラジオ波焼灼療法などがその他の治療に含まれます。

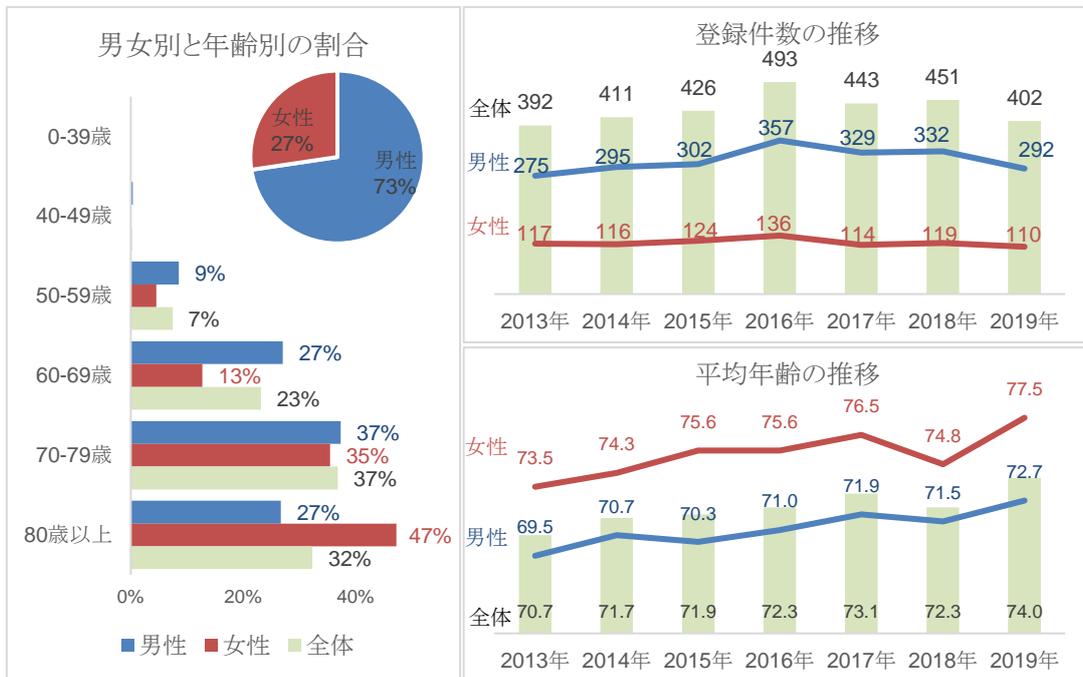


◆ 4-6 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表P-6)

● 1 診断 ●

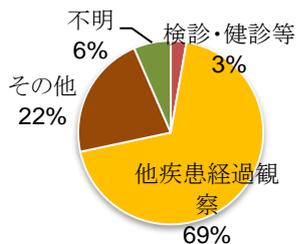
● 1-1 登録状況 ●

肝細胞癌の2019年診断症例の登録件数は402件で、男性が73%を占めています。



◆ 1-1 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2013-2019年診断
▶症例区分8, 80除く
(付録資料:表A-5)
(付録資料:表B-5)
(付録資料:表C-5)
(付録資料:表D-5)

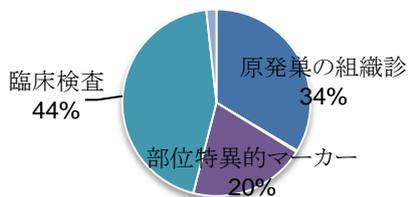
● 1-2 がんが発見される経緯 ●



肝細胞癌に対し、定められている検診はなく、がん検診・健康診断、人間ドックでがんが発見された割合は3%に過ぎず、約7割が他疾患経過観察中にごんが発見されています。そのほとんどが肝炎の経過観察中の発見と思われます。

◆ 1-2 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表F-5)

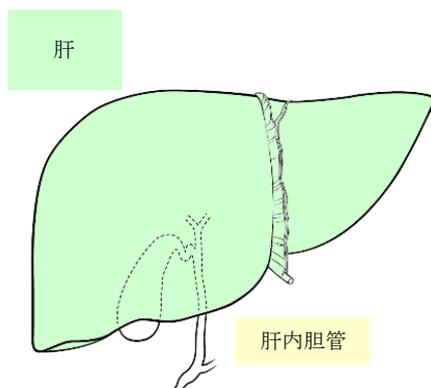
● 1-3 診断 ●



診断根拠は、原発巣の組織診が34%、肝細胞癌に対するAFP高値などの部位特異的マーカーが20%、臨床検査が44%となっています。

◆ 1-3 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表G-5)

● 1-4 詳細部位 ●

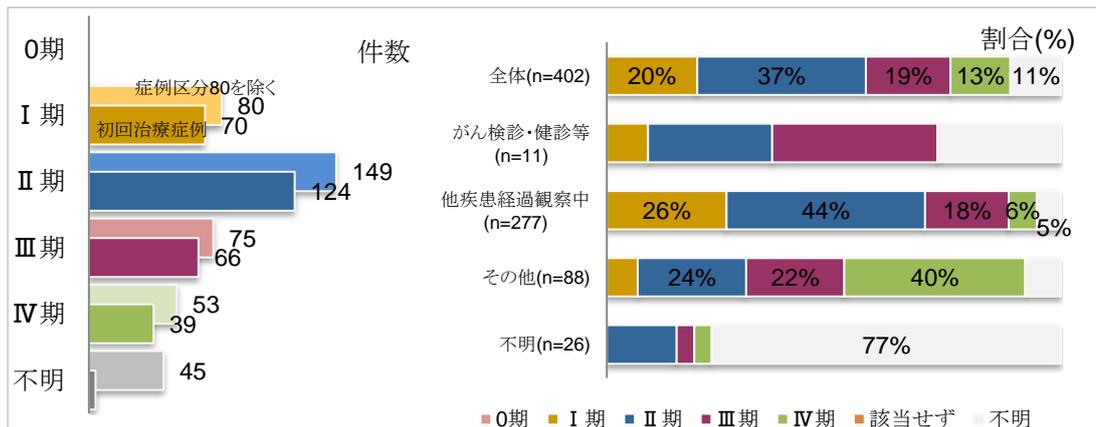


局在コード	部位名	登録数
C22.0	肝	402
C22.1	肝内胆管	

◆ 1-4 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く

● 1-5 病期(肝癌取扱い規約分類 治療前ステージ) ●

病期分類の対象となる402件のうち、Ⅱ期が最も多く37%、次にⅠ期が20%を占めています。



◆ 1-5 資料
院内がん登録
取扱い規約ステージ
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表Q-3)
(付録資料:表Q-4)
(付録資料:表H-5)

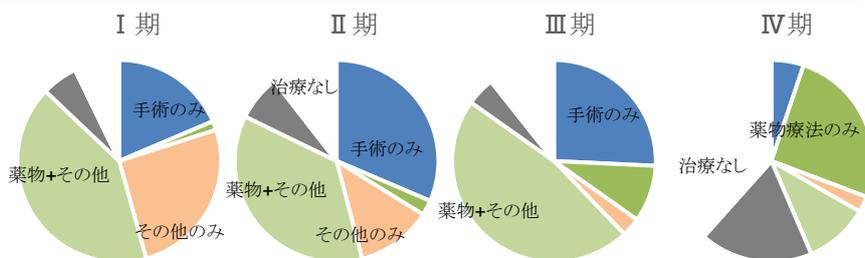
● 2 治療 ●

● 2-1 肝細胞がんの治療 ●

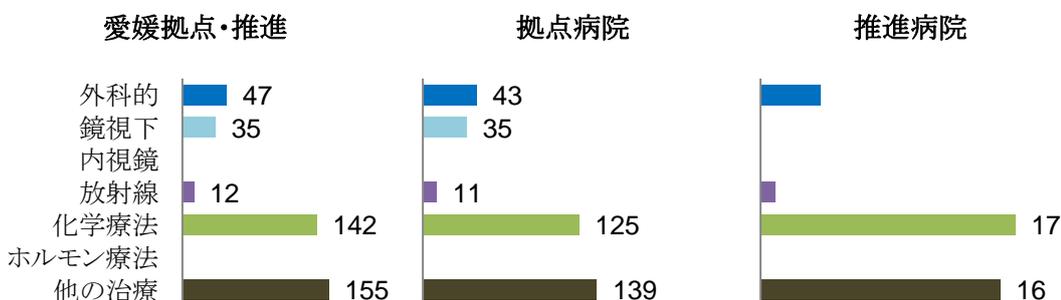
肝癌取扱い規約分類ステージ別の治療法は、Ⅰ期からⅢ期では「薬物+その他」が多く、Ⅳ期では「治療なし」が44%です。
院内がん登録では、ラジオ波による焼灼療法(RFA)やTAEは、「その他」の治療として、肝動脈化学塞栓療法(TACE)は「薬物+その他」として登録されます。

◆ 2-1 資料
院内がん登録
取扱い規約ステージ
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表Q-5)

	stage I		stage II		stage III		stage IV	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
手術のみ	13	19%	39	31%	17	26%	1~3	(5%)
薬物療法のみ	1~3	(1%)	1~3	(2%)	4~6	(7%)	10	26%
その他のみ	18	26%	15	12%	1~3		1~3	(22%)
薬物+その他	29	41%	45	36%	31	47%	4~6	(20%)
上記以外の組合せ	4~6	(43%)	7~9	(22%)	1~3	(17%)	7~9	(15%)
治療なし	4~6	(7%)	13	10%	7~9	(15%)	15	38%
合計	70		124		66		39	



● 2-2 各治療の件数 ●



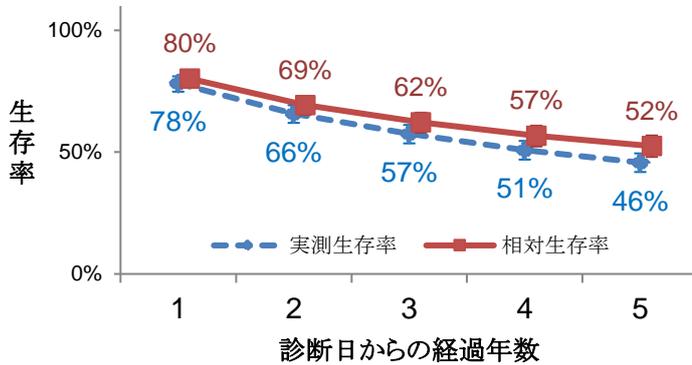
◆ 2-2 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表Q-6)

● 3 予後 ●

● 3-1 5年相対生存率 ●

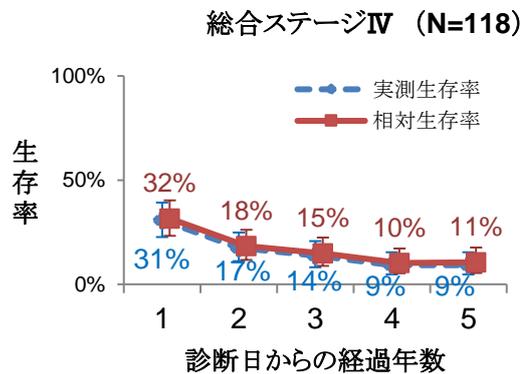
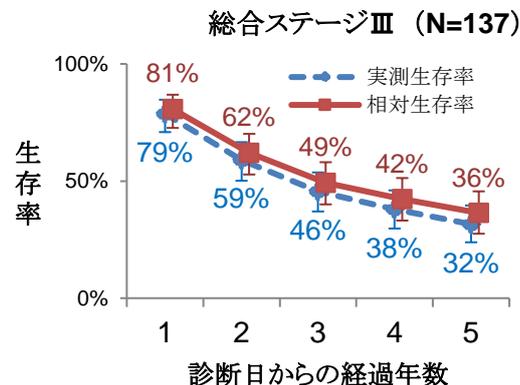
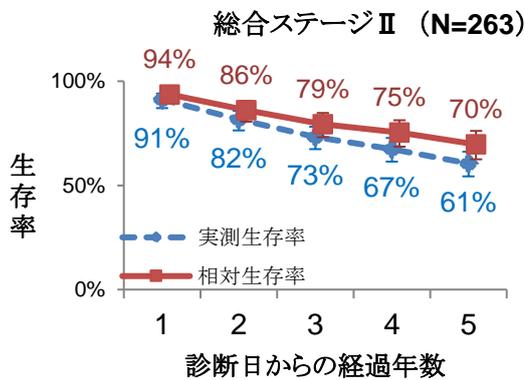
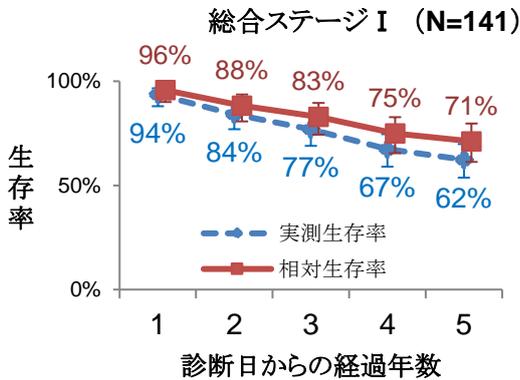
2012年と2013年に診断された症例の5年生存率は、実測生存率45.7% (95%信頼区間 41.9 - 49.5)、相対生存率52.5% (95%信頼区間 48.1 - 56.8)でした。集計対象数は663、うち70%が男性、年齢別では70歳代が最も多く34%、60歳代が34%、80歳以上が19%でした。術前の取り扱い規約ステージ別の内訳は、I期 21%、II期 40%、III期 21%、IV期 18%となっています。

	N	*予後判明率 97.6%					
		実測生存率			相対生存率		
		95%信頼区間			95%信頼区間		
1年	512	0.782	0.748	0.811	0.802	0.767	0.832
2年	429	0.658	0.620	0.693	0.693	0.653	0.729
3年	374	0.575	0.536	0.612	0.622	0.580	0.662
4年	328	0.509	0.470	0.546	0.567	0.523	0.609
5年	292	0.457	0.419	0.495	0.525	0.481	0.568



◆ 3-1 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2012-2013年診断
▶症例区分2,3のみ
▶100歳未満

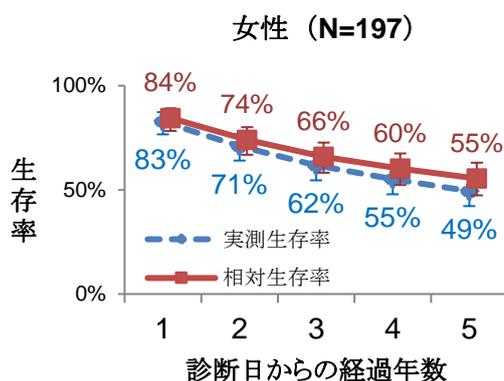
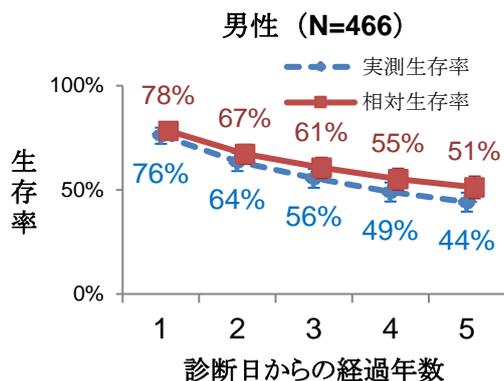
● 3-2 取り扱い規約ステージ別 5年相対生存率 ●



◆ 3-2 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2012-2013年診断
▶症例区分2,3のみ
▶100歳未満

〈付録資料:表e-1〉

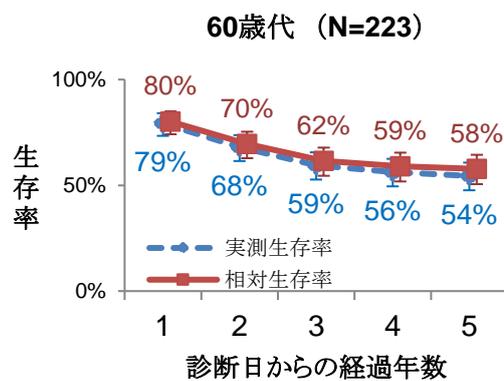
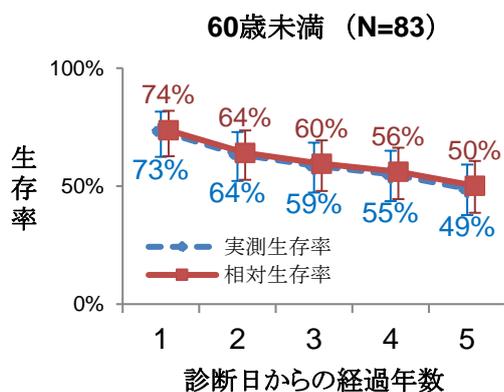
● 3-3 性別 5年相対生存率 ●



◆ 3-3 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2012-2013年診断
▶症例区分2,3のみ
▶100歳未満

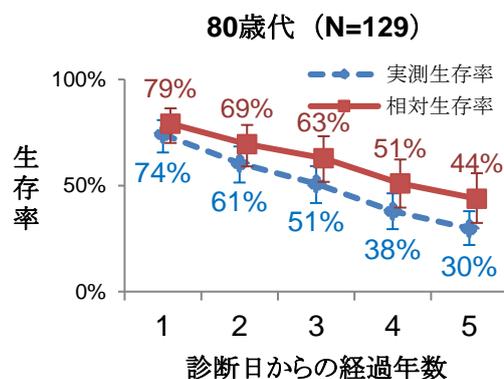
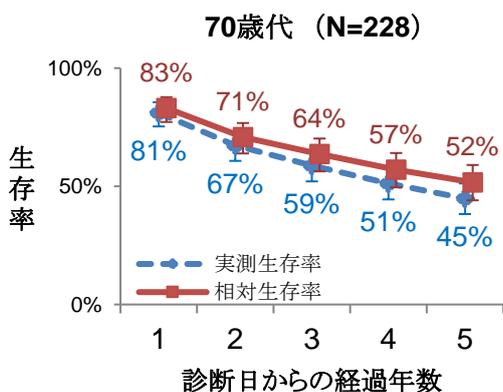
〈付録資料:表e-2〉

● 3-4 年齢群別 5年相対生存率 ●



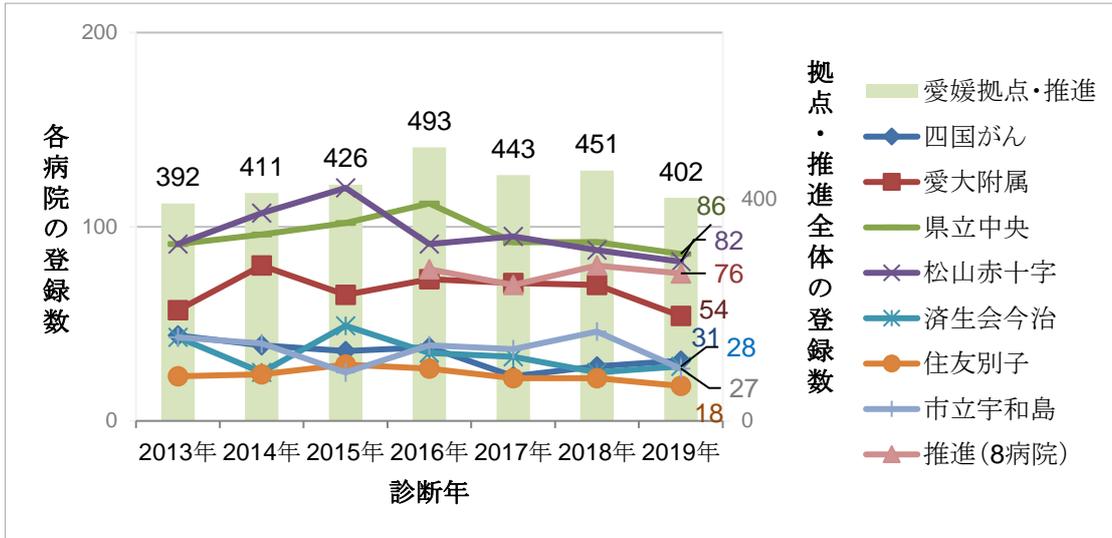
◆ 3-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2012-2013年診断
▶症例区分2,3のみ
▶100歳未満

〈付録資料:表e-3〉



4-1 登録件数の推移

肝細胞癌の登録件数は、2019年診断症例は402件です。

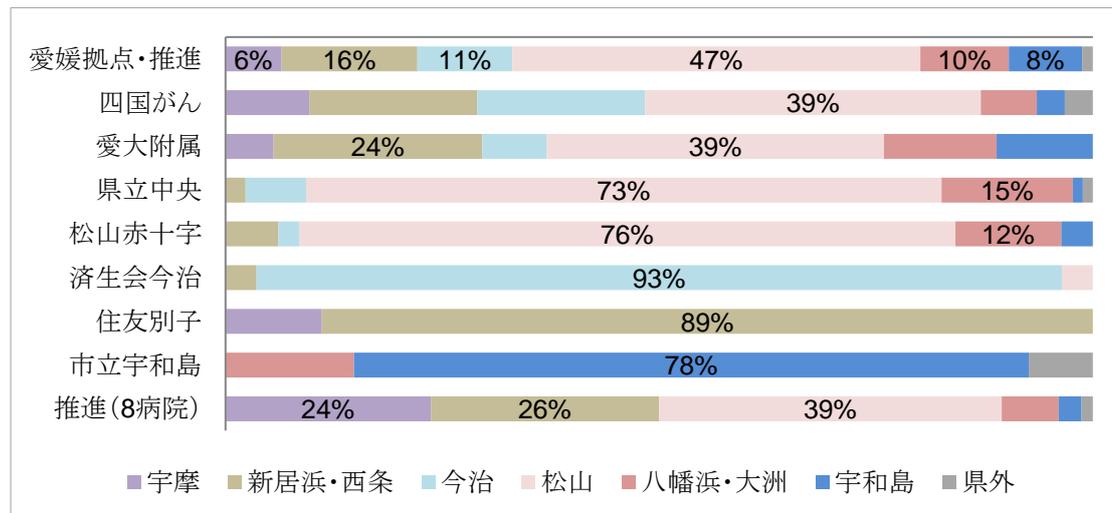


◆ 4-1 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2013-2019年診断
▶症例区分8, 80除く
(付録資料:表A-5)

4-2 診断時の住所(二次医療圏別)

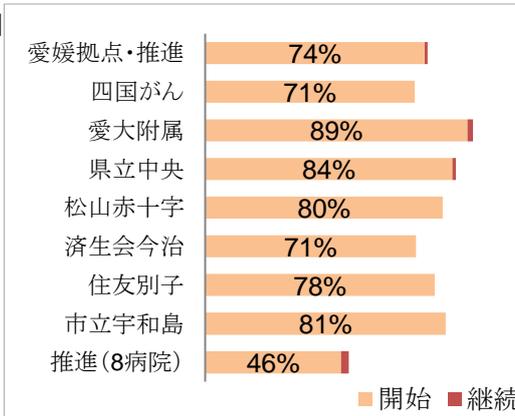
診断時の居住地の割合を示しています。拠点・推進病院全体では47%が松山圏域の患者です。四国がんと愛大附属では他医療圏からの患者割合が大きく、他の拠点病院では病院の所在する医療圏の患者の登録割合が大きいです。

◆ 4-2 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表I-5)



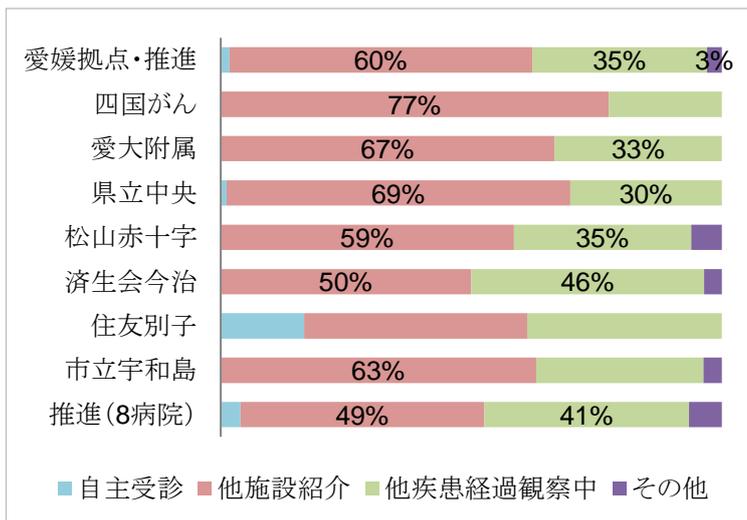
4-3 治療(初回治療)を行った症例の割合

新規の症例のうち74%がその病院で初回治療を受けています。初回治療を開始した症例の割合は77%です。初回治療の症例の割合は病院により差があり、治療症例の割合が低い施設では、診断のみを行った症例や再発治療目的でその病院をはじめて受診した症例が多いことを示しています。



◆ 4-3 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表K-5)

■ 4-4 来院経路 ■



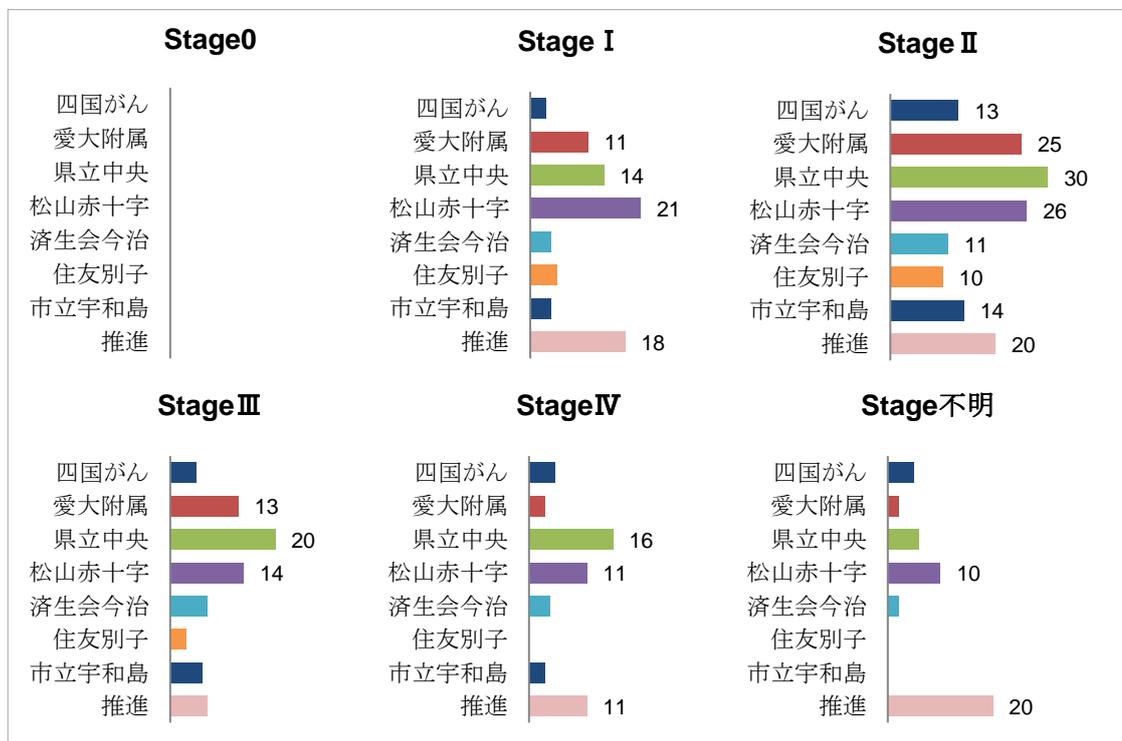
拠点・推進病院を受診した肝細胞癌患者の60%が他施設からの紹介受診です。紹介なく、自主受診した割合は、病院により異なりますが、地域での役割や病院特性などを表していると考えられます。

◆ 4-4 資料
院内がん登録
集計対象:

- ▶ 拠点・推進
- ▶ 2019年診断
- ▶ 症例区分80除く
(付録資料:表L-5)

■ 4-5 病期別の件数 ■

肝臓取り扱い規約分類ステージ別に、各病院の登録数を示しています。その病院では初回治療を行っていない症例も含まれています。そのため、ステージに関する十分な情報がない症例も含まれており、ステージ不明が一定数存在しています。

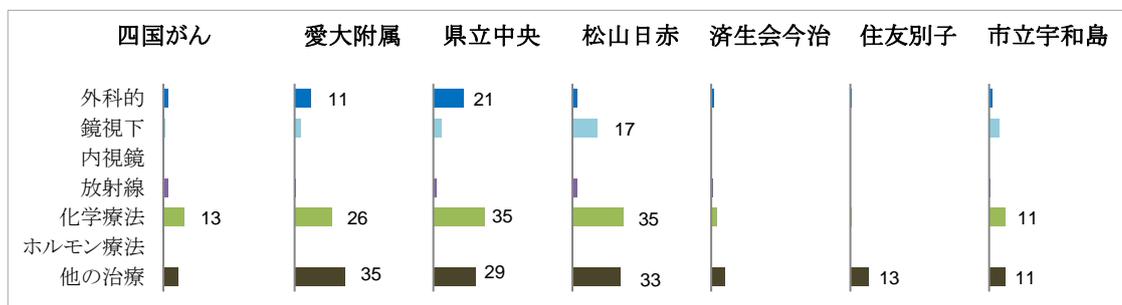


◆ 4-5 資料
院内がん登録
集計対象:

- ▶ 拠点・推進
- ▶ 2019年診断
- ▶ 症例区分80除く
- ▶ 病期集計対象のみ
(付録資料:表Q-3)

■ 4-6 治療の件数 ■

各病院で行われた初回治療の件数です。ラジオ波焼灼療法などがその他の治療に含まれます。



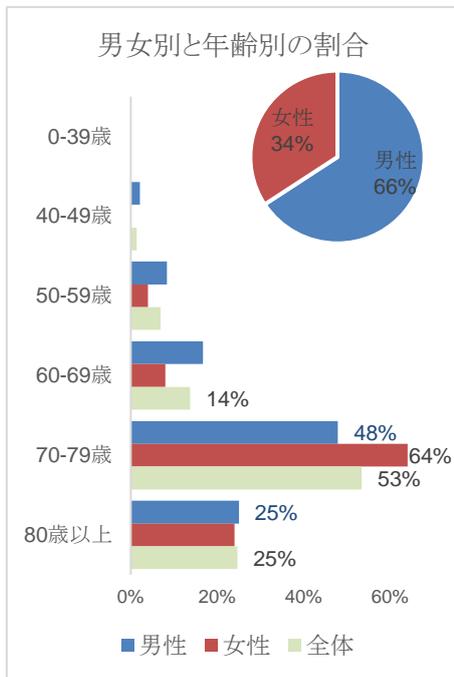
◆ 4-6 資料
院内がん登録
集計対象:

- ▶ 拠点のみ
- ▶ 2019年診断
- ▶ 症例区分20-31
- ▶ 病期集計対象のみ
(付録資料:表Q-6)

● 1 診断 ●

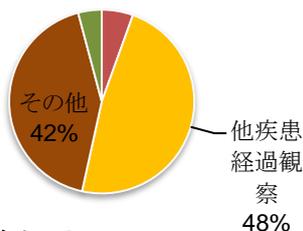
● 1-1 登録状況 ●

肝内胆管がんの2019年診断症例の登録件数は73件で、男性が多く66%を占めています。

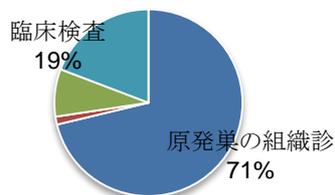


◆ 1-1 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2013-2019年診断
▶症例区分8, 80除く
(付録資料:表A-6)
(付録資料:表B-6)
(付録資料:表C-6)
(付録資料:表D-6)

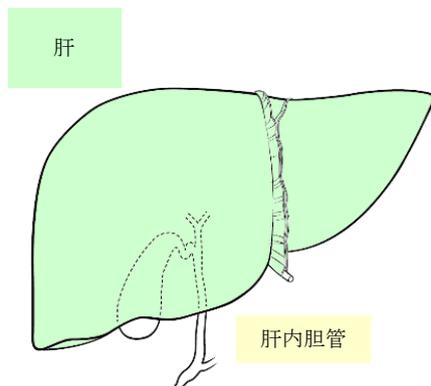
● 1-2 がんが発見される経緯 ●



● 1-3 診断 ●



● 1-4 詳細部位 ●



局在コード	部位名	登録数
C22.0	肝	
C22.1	肝内胆管	73

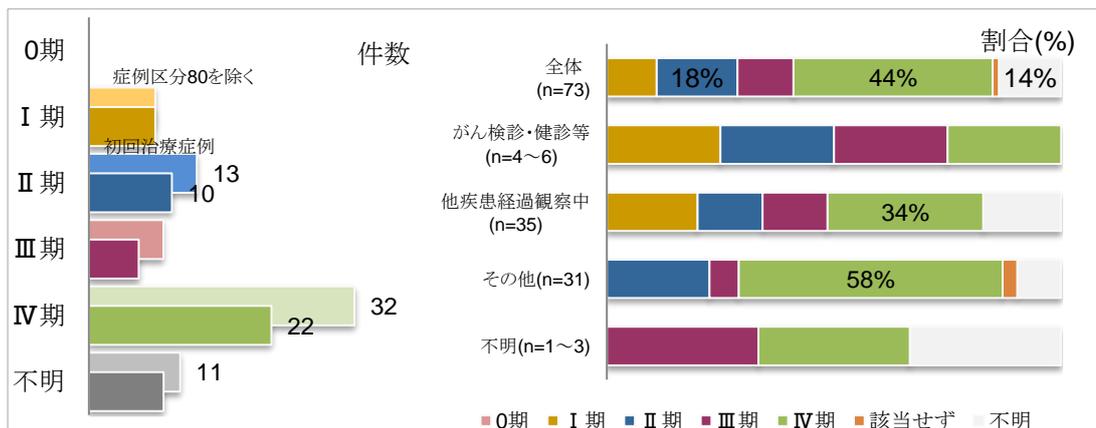
◆ 1-2 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表F-6)

◆ 1-3 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表G-6)

◆ 1-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く

● 1-5 病期(取扱い規約別 治療前ステージ) ●

病期分類の対象となった73件のうちIV期が最も多く44%を占めています。



◆ 1-5 資料
院内がん登録
取扱い規約別
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表R-3)
(付録資料:表R-4)
(付録資料:表H-6)

● 2 治療 ●

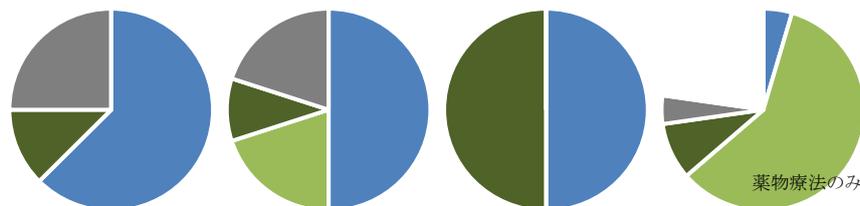
● 2-1 肝内胆管がんの治療 ●

肝癌取扱い規約分類ステージ別の主な治療法を示しています。

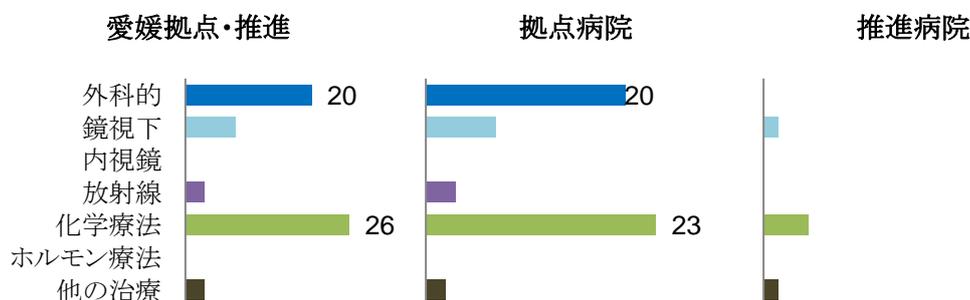
	stage I		stage II		stage III		stage IV	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
手術のみ	4~6	(65%)	4~6	(56%)	1~3	(37%)	1~3	(5%)
薬物療法のみ	0	0%	1~3	(9%)	0	(21%)	13	59%
手術+薬物	1~3	(6%)	1~3	(12%)	1~3	(13%)	1~3	(4%)
上記以外の組合せ	1~3	(9%)	1~3	(10%)	0	(7%)	1~3	(6%)
治療なし	0	0%	0	0%	0	0%	4~6	(37%)
合計	7~9		10		4~6		22	

()内の割合は2018年全国集計の値

◆ 2-1 資料
院内がん登録
取扱い規約別
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表R-5)



● 2-2 各治療の件数 ●

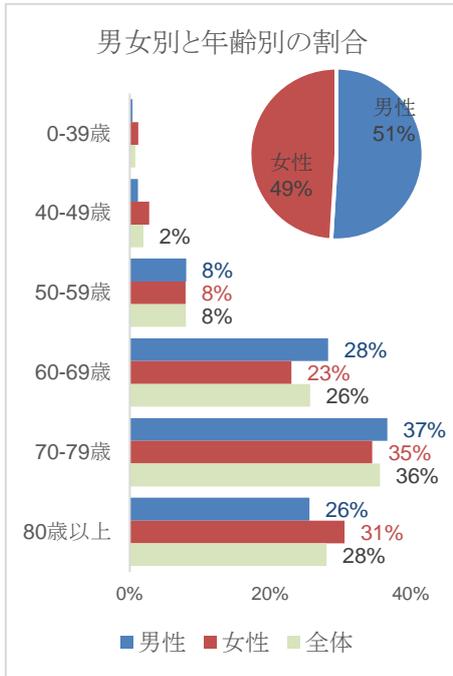


◆ 2-2 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表R-6)

● 1 診断 ●

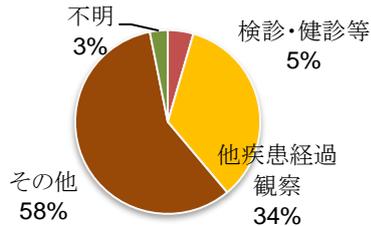
● 1-1 登録状況 ●

膵臓がんの2019年診断症例の登録件数は514件です。



◆ 1-1 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2013-2019年診断
▶症例区分8, 80除く
(付録資料:表A-8)
(付録資料:表B-7)
(付録資料:表C-7)
(付録資料:表D-7)

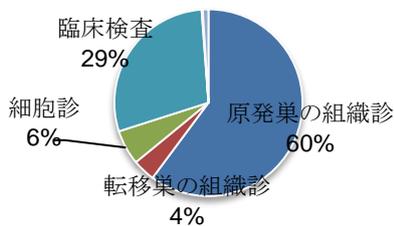
● 1-2 がんが発見される経緯 ●



膵臓がんが発見される経緯で最も多いのは、自覚症状により発見される場合を含む「その他」で58%です。

◆ 1-2 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表F-7)

● 1-3 診断 ●



膵臓がんでは、腫瘍の生検が難しく発見が遅いため病理学的な診断が行わないことが多く、組織診が行われているのは6割程にとどまり、約3割が臨床検査で診断されています。

◆ 1-3 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表G-7)

● 1-4 詳細部位 ●

約半数が膵頭部から発生しています。

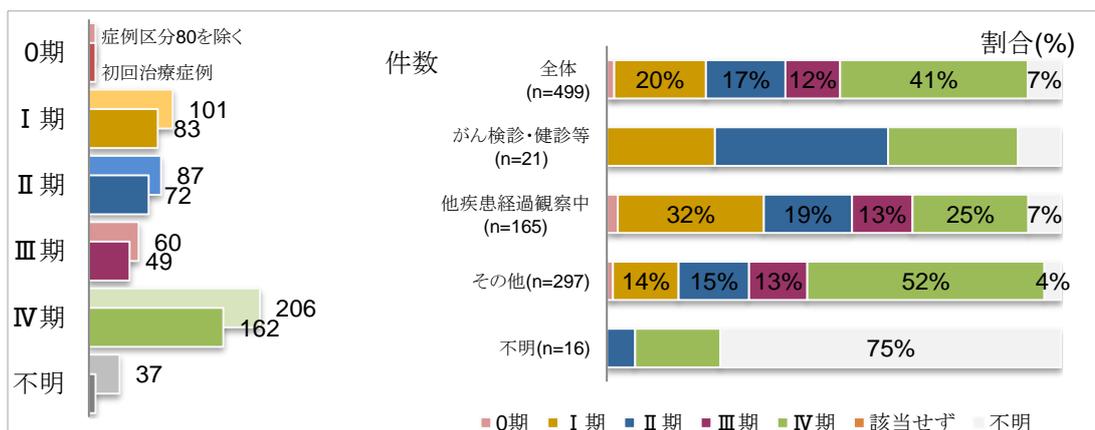
*院内がん登録では、
[C25.3 膵管]
[C25.4 ラングェルハンス島]
[C25.8 膵の境界部病巣]
のコードは原則使用しないことになっています。

局在コード	部位名	登録数
C25.0	膵頭部	256
C25.1	膵体部	134
C25.2	膵尾部	113
C25.3	膵管	0
C25.4	ランゲルハンス島	0
C25.8	膵の境界部病巣	0
C25.9	詳細部位不明	11

◆ 1-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く

● 1-5 病期(総合ステージ) ●

膵臓がんは有効な早期発見法が確立されていません。病期分類の対象である499件のうち、IV期が最も多く41%です。

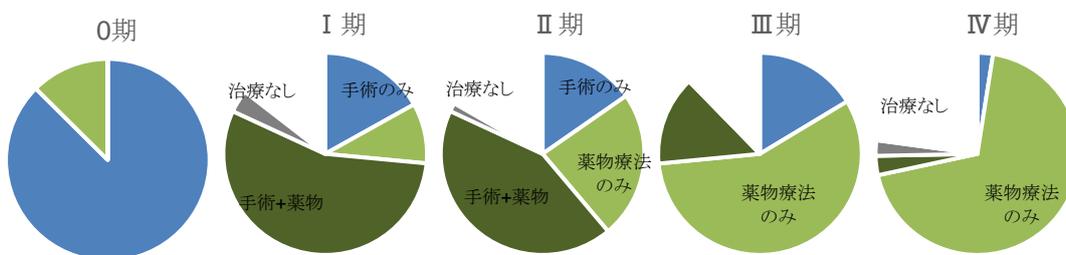


● 2 治療 ●

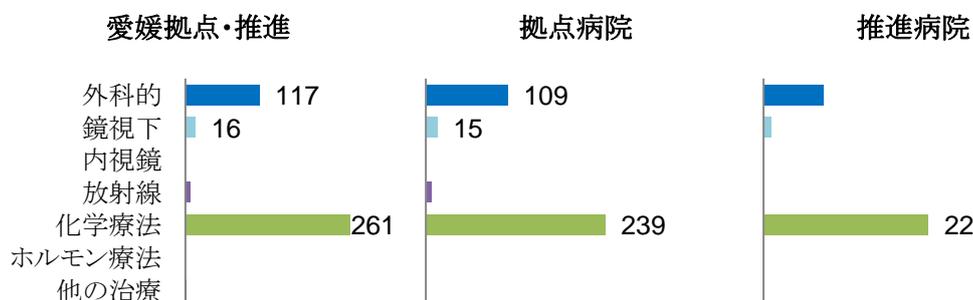
● 2-1 膵臓がんの治療 ●

ステージ別の主な治療法は、II期では手術+薬物、薬物療法のみ、III期とIV期では薬物療法のみです。IV期では治療なしの割合も約2割を占めています。

	stage0		stage I		stage II		stage III		stageIV	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
手術のみ	7~9 (95%)		14 (22%)	17%	11 (22%)	15%	7~9 (7%)		4~6 (1%)	
薬物療法のみ	1~3 (0%)		7~9 (16%)	24%	17 (15%)	24%	28 (48%)	57%	112 (56%)	69%
手術+薬物	0 (4%)	0%	46 (32%)	55%	31 (45%)	43%	7~9 (19%)		4~6 (3%)	
上記以外の組合せ	0 (0%)	0%	1~3 (8%)		1~3 (5%)		0 (9%)	0%	4~6 (2%)	
治療なし	0 (1%)	0%	12 (23%)	14%	12 (13%)	17%	4~6 (17%)		37 (37%)	23%
合計	7~9		83		72		49		162	



● 2-2 各治療の件数 ●



◆ 1-5 資料
院内がん登録
総合ステージ別
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表S-3)
(付録資料:表S-4)
(付録資料:表H-7)

◆ 2-1 資料
院内がん登録
総合ステージ別
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表S-5)

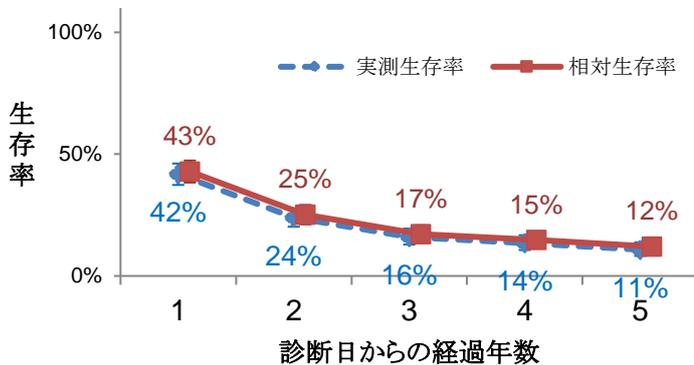
◆ 2-2 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表S-6)

● 3 予後 ●

● 3-1 5年相対生存率 ●

2012年と2013年に診断された症例の5年生存率は、実測生存率10.8% (95%信頼区間 8.2 - 13.8)、相対生存率12.1% (95%信頼区間 9.2 - 15.4)でした。集計対象数は481、男性がやや多く57%、年齢別では70歳代が最も多く35%、60歳代が30%、80歳代以上が22%となっています。ステージ別の内訳は0期を集計対象外としているため、I期が6%、II期34%、III期9%、IV期51%となっています。

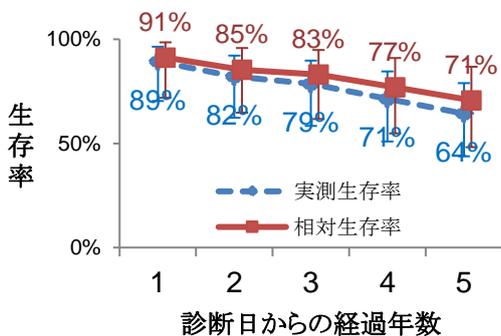
	N	*予後判明率 99.8%					
		実測生存率			相対生存率		
		95%信頼区間	95%信頼区間	95%信頼区間			
1年	481	1			1		
2年	201	0.418	0.374	0.462	0.429	0.383	0.474
3年	115	0.239	0.202	0.278	0.251	0.212	0.292
4年	77	0.160	0.129	0.194	0.171	0.138	0.208
5年	65	0.135	0.106	0.167	0.148	0.116	0.183
5年	51	0.108	0.082	0.138	0.121	0.092	0.154



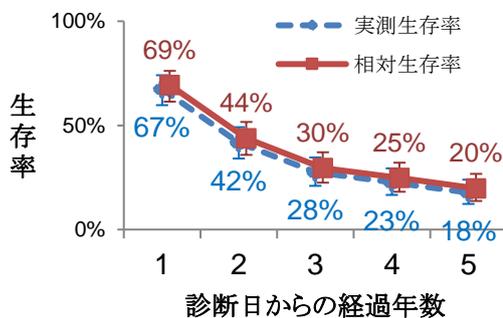
◆ 3-1 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2012-2013年診断
▶症例区分2,3のみ
▶100歳未満
▶総合ステージ
0期除く

● 3-2 ステージ別 5年相対生存率 ●

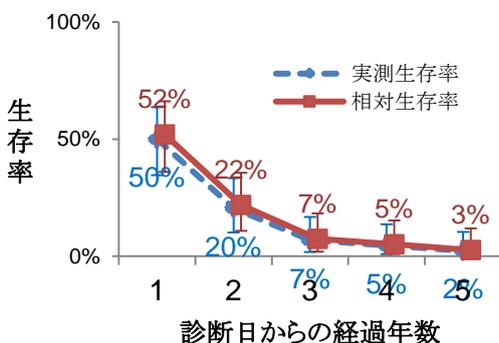
総合ステージ I (N=28)



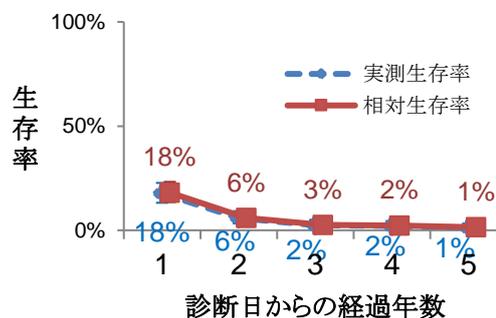
総合ステージ II (N=163)



総合ステージ III (N=44)

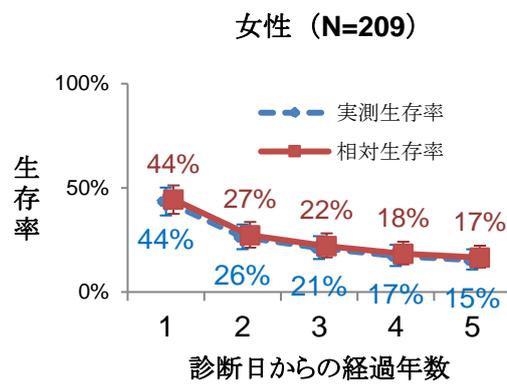
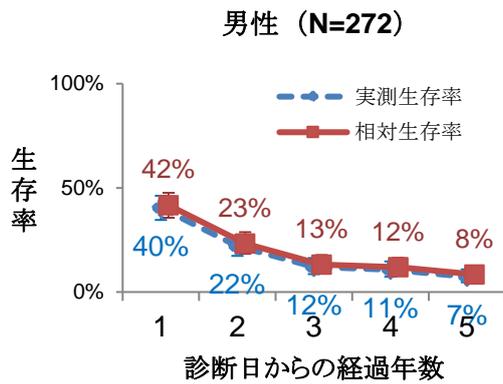


総合ステージ IV (N=243)



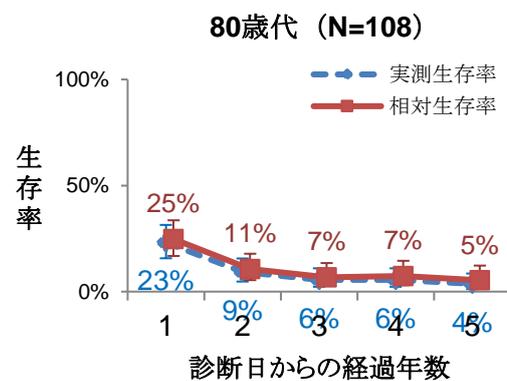
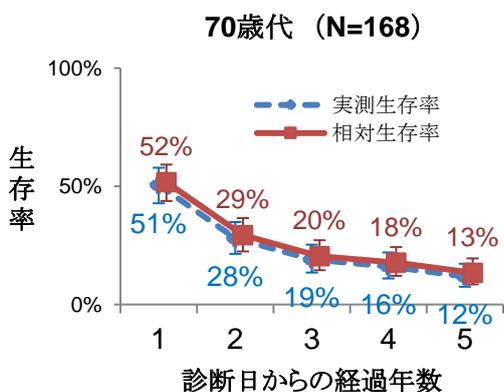
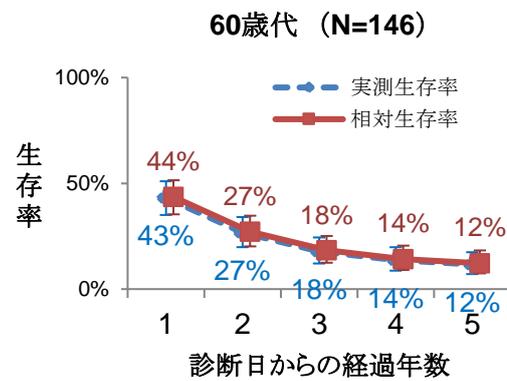
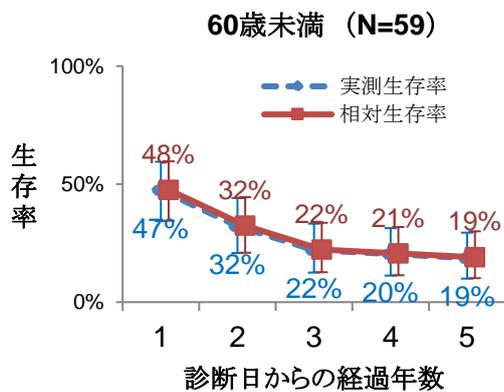
◆ 3-2 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2012-2013年診断
▶症例区分2,3のみ
▶100歳未満
▶総合ステージ
0期除く
(付録資料:表g-1)

● 3-3 性別 5年相対生存率 ●



◆ 3-3 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2012-2013年診断
▶症例区分2,3のみ
▶100歳未満
▶総合ステージ
0期除く
(付録資料:表g-2)

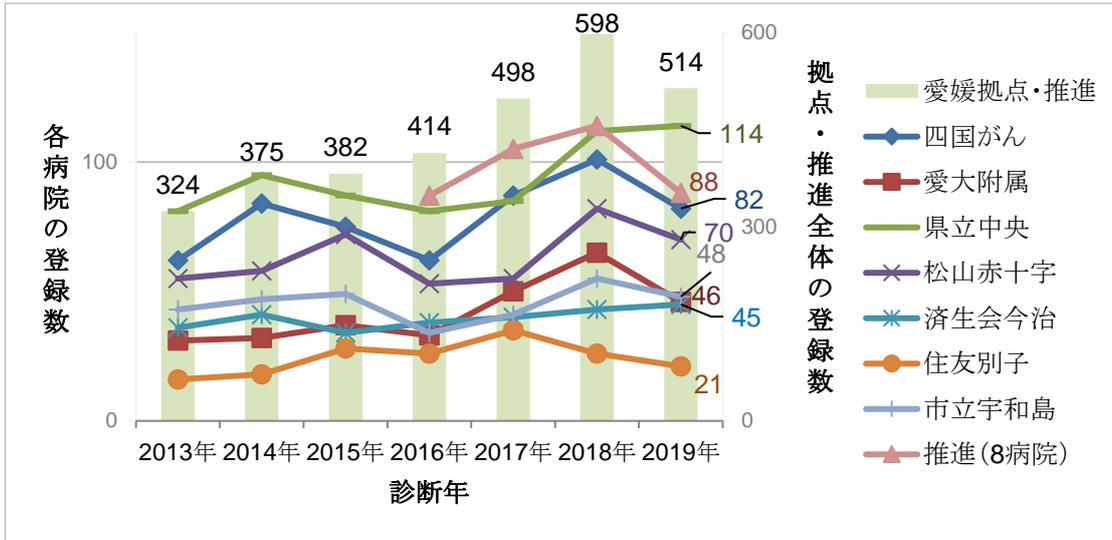
● 3-4 年齢群別 5年相対生存率 ●



◆ 3-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2012-2013年診断
▶症例区分2,3のみ
▶100歳未満
▶総合ステージ
0期除く
(付録資料:表g-3)

■ 4-1 登録件数の推移 ■

膵臓がんの2019年診断症例の登録件数は、県全体で514件です。

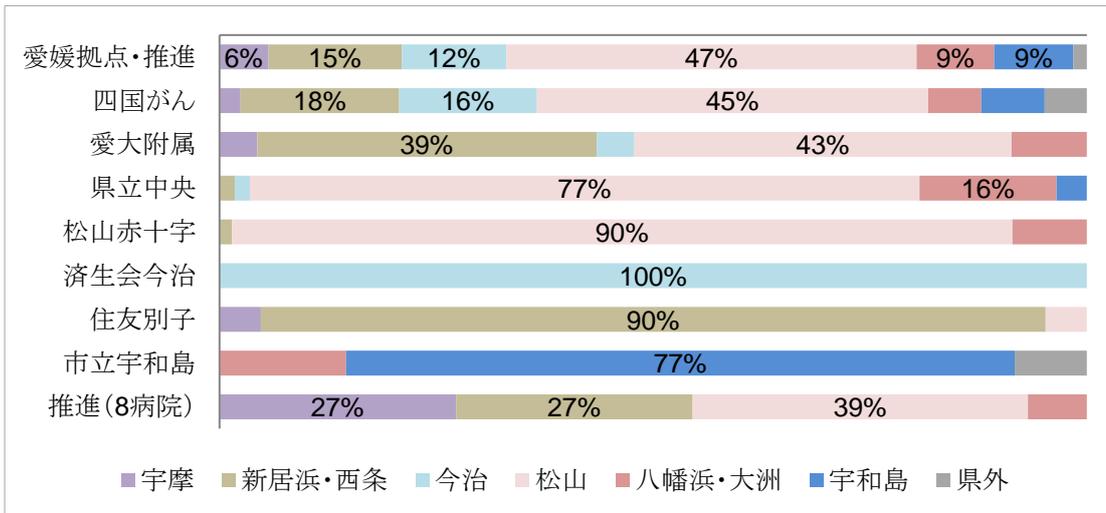


◆ 4-1 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2012-2018年診断
▶症例区分8, 80除く
(付録資料:表A-8)

■ 4-2 診断時の住所(二次医療圏別) ■

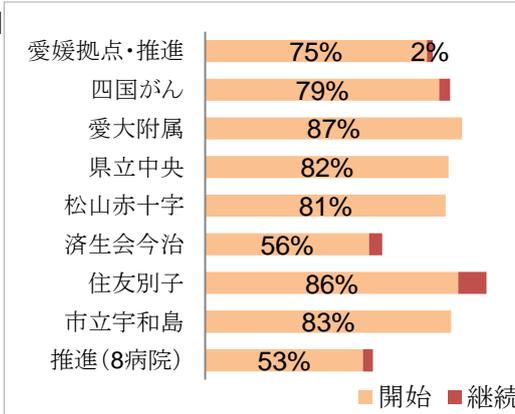
診断時の居住地の割合を示しています。拠点・推進病院全体では47%が松山圏域の患者です。四国がんと愛大附属では他医療圏からの患者割合が大きく、他の拠点病院では病院の所在する医療圏の患者の登録割合が大きいです。

◆ 4-2 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表I-7)



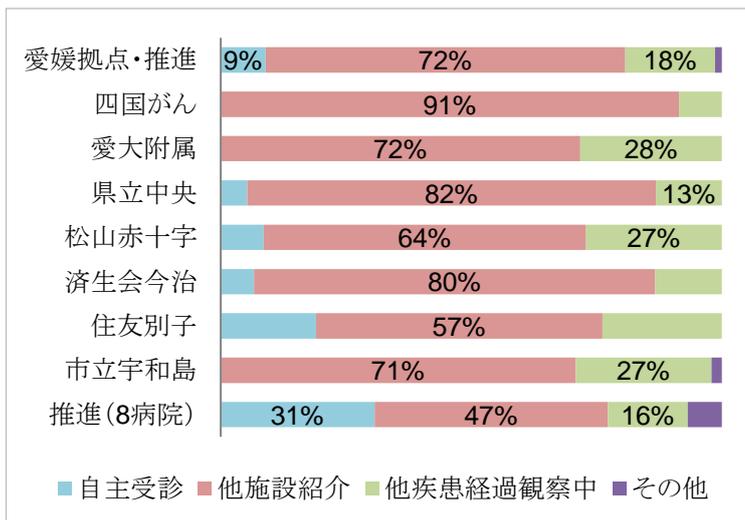
■ 4-3 治療(初回治療)を行った症例の割合 ■

新規の膵臓がん症例のうち77%がその病院で初回治療を受けています。初回治療を開始した症例の割合は75%です。初回治療症例の割合は病院により差があり、治療症例の割合が低い施設では、診断のみを行った症例や再発治療目的でその病院をはじめて受診した症例が多いことを示しています。



◆ 4-3 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表K-7)

■ 4-4 来院経路 ■

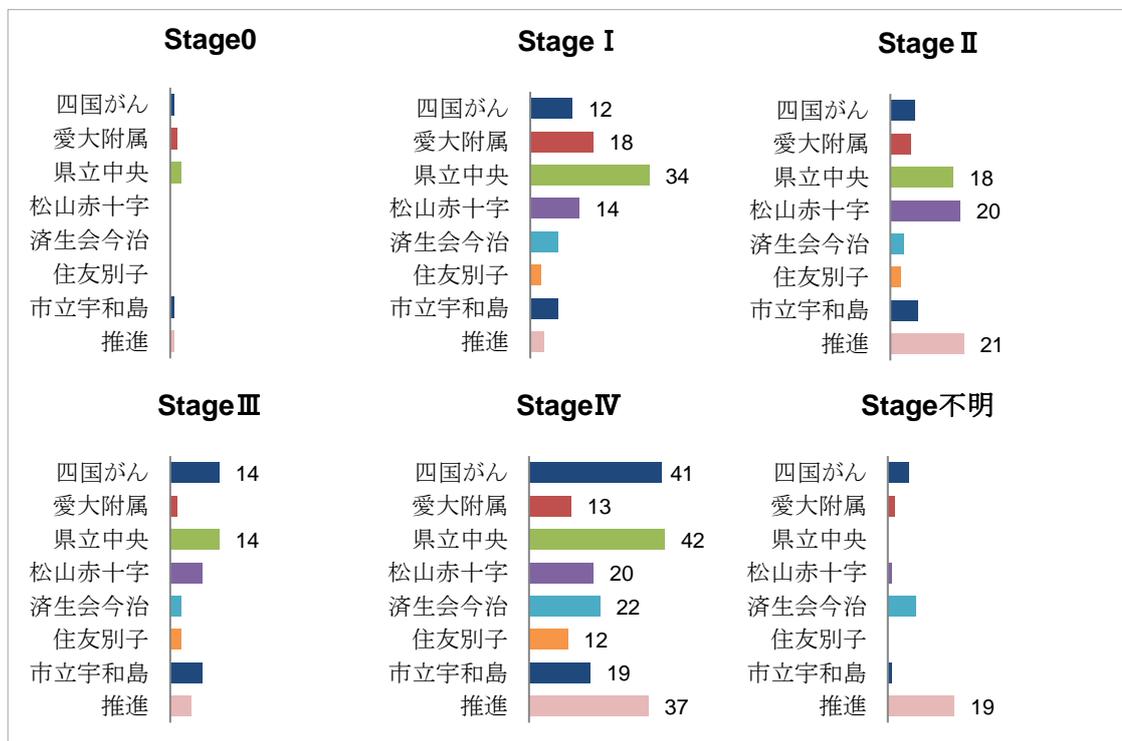


拠点・推進病院を受診した患者の72%が他施設からの紹介受診です。紹介なく、自主受診した割合は、病院により異なりますが、地域での役割や病院特性などを表していると考えられます。

◆ 4-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表L-7)

■ 4-5 病期別の件数 ■

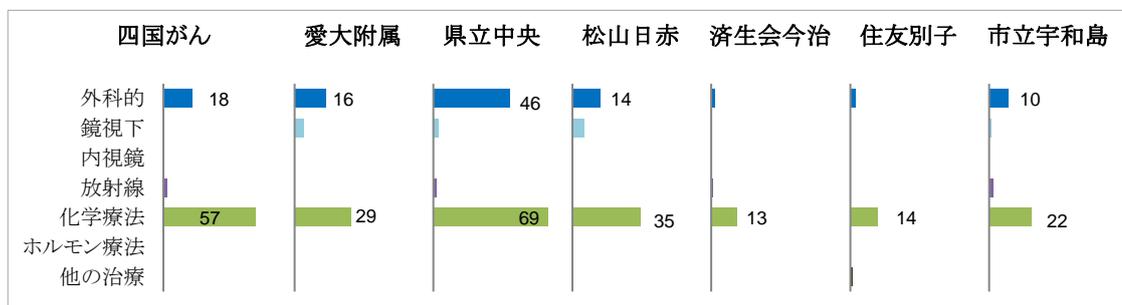
術後のステージも加味した総合ステージ別に、各病院の登録数を示しています。その病院では初回治療を行っていない症例も含まれています。そのため、ステージに関する十分な情報がない症例も含まれており、ステージ不明が一定数存在しています。



◆ 4-5 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表S-3)

■ 4-6 治療の件数 ■

各病院で行われた初回治療の件数です。



◆ 4-6 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表S-6)